(NCC主催基礎研修3のリニューアルに準じて)

相談員基礎演習 リニューアル

相談員基礎演習の目的・学習目標

相談員に求められる基本姿勢と役割を理解し、相談者個々のニーズに 沿った相談支援を行うために必要な知識・スキル・態度を学ぶ

- がん相談支援センターやがん専門相談員に求められる5つの基本姿勢を理解する (認知: 理解)
- からだ・こころ・くらしの観点から包括的に対象理解を深める重要性を認める(情意: 価値づけ)
- 知識・予測・意図をもとにコミュニケーションスキルを活用する意義を認める(情意: 価値づけ)
- 主訴だけでなく真のニーズが潜在することを意識した相談対応の重要性に気づく(情意:受容)
- 基本姿勢、対象理解、アセスメント等の知識を適用し、事例1の相談支援プロセスを分析する (認知:応用・分析)
- 基本姿勢、対象理解、アセスメント等の知識を適用し、事例2において相談者主体の支援計画を 検討する (認知:統合)
- 事例2の支援計画を反映した電話相談対応にチャレンジし、気づき・課題を見出す(認知:分析)
- 相談者の想いを叶えるための院内外との連携における留意点について、自らの見解を示す (情意:価値の組織化)

©国立がん研究センターがん対策研究所



がん相談支援センターが大切にする 基本姿勢 がん専門和部首の役割 所属・製菓の (金銭食人 製菓化と共業 (塩味の供金 NUMBER OF CALCULATION OF CASE GBは、特別者が受ける困憊について十分に推験を得た上 で選択する権利を事金します。 MELTONISCO SEL SETT

<事例1> 子宮頸がん患者への相談支援



<事例2> 大腸がん患者家族への相談支援

演習6 相談の続き

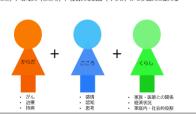


てもどちらでもよい 3) 相談員役同士で協力し合う

4) 役になり切る!

対象理解:からだ・こころ・くらし

人は、生物として共通の特性をもちながら、異なる側面や多面性をもつ唯一無二の個別的な存在 身体的(からだ)、心理的(こころ)、社会的な側面(くらし)から多面的に捉える



対象者理解:全体像、包括的理解

- からだ・こころ・くらし、その他様々な要素が複雑に影響し関連し合い、その人の全体像を作り上げている。
- 人それぞれ現在に至るまでの人生のプロセスがある(時間的、空間的)
- 人は環境に影響を受け、様々な体験を通して、感情や価値観も変化し続ける存在である 物事にどのように対処するかコービングパターンが異なる
- 様々なニーズをもち、ニーズを充足するために思考し行動する
 その人なりの「強み (ストレングスやレジリエンス)」がある
- その人の全てを理解することはできないが、その人の立場に立って理解しようと試みることが大切 語られた事実から、相談者を立体的、全人的、包括的、ナラティブに理解する



相談者の強み-Strengths-

「できないこと」や「問題」に着目するのではなく、 「できる」ことに着目しようという考え方

個人がもっている能力だけに限らず、その人が生活する地域などの環境もストレングスと考える

個人のストレングスの例 真面目 思慮深い 行動力がある 優しい 努力家 コミュニケーション力が高い

家族と住んでいる 頼れる友人がいる 仕事をしている

ストレングスに着目して活用し、相談者自ら「できる」と感じ、実行していけることを目指す 主訴とニーズ

- 主訴:相談者が語った質問、疑問、心配事
- ニーズ: 語られなかった本当の困りごと、相談に至った真の原因 =真のニーズ
- ✓ 相談者が自覚しつつも表明しないニーズ、あるいは自覚はないが客観的に解決が必要とされるニーズがある。
- ニーズの充足は、患者のエンパワメントにつながる
- ✓ 真のニーズを明らかにするためには、知識や技術、実践の経験が必要





演習6 相談の続き 役割の詳細

1) スタート、ストップ、再開の声をかける

- 2) 必要時、軌道修正する
- フィードバックでは、できるだけ全員が発言で
- きるよう留意する

 逐類36の最後「もしかしたら…」から始める。 2) 兄との関係の詳細等は自由に設定してOK

相談者役の体験を通した気づきを共有する

2) ある程度のまとまり毎でも、セリフ毎に交代し

- 1) 相談者と相談員とのやりとりについて客観的な 視点を伝える
- 2) ニーズの充足やコミュニケーションスキルの観 点から、良かった点、意義・効果、改善点(代 替室)等を伝える
- 3) 発表者は手元でメモをとり、発表に備える

時間:計約40